

CASBEE-新築(簡易版)2010年版		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)201		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)	
(株)明治 京都工場 PD棟増築工事							
スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.9</b>	
<b>Q1 室内環境</b>			0.30			<b>3.0</b>	
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	3.0	
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-		
2 設備騒音対策		-	-	-	-		
1.2 遮音		<b>4.2</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能	遮熱厚の採用	5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	3.0	-		
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.8</b>	0.35	-	-	3.8	
2.1 室温制御		<b>3.8</b>	0.50	-	-		
1 室温		3.0	0.38	3.0	-		
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		
3 外皮性能	断熱サンドイッチパネル(イソバントBL t=35)	5.0	0.25	3.0	-		
4 ゾーン別制御性	空冷ヒートポンプ・外調機による温度制御	4.0	0.38	-	-		
5 温度・湿度制御		-	-	-	-		
6 個別制御		-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		
8 監視システム		-	-	-	-		
2.2 湿度制御	外調機・加湿器による湿度制御	5.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-		
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	-	-	2.0	
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	-	-		
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口		-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.30	-	-		
1 照明器具のグレア		-	-	-	-		
2 昼光制御		1.0	1.00	3.0	-		
3 映り込み対策		-	-	-	-		
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-		
<b>4 空気質環境</b>		<b>2.8</b>	0.25	-	-	2.8	
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-		
2 アスベスト対策		-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-		
4 レジオネラ対策		-	-	-	-		
4.2 換気		<b>2.3</b>	0.30	-	-		
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能		1.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-		
4 給気計画		-	-	-	-		
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙対応	5.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.0</b>	
<b>1 機能性</b>		<b>2.6</b>	0.40	-	-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性		<b>1.6</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	-	-		
3 内装計画		1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	内装、外装の仕上げの対応	4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務		-	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.31	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.48	-	-		
1 耐震性		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性			2.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	電源設備を屋上階に設置し停電の回避	4.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.9	0.29	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高1階7,680 2階6,060 3階5,750を確保	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり		将来の変異性を考慮し10000N/m <sup>2</sup> 確保	5.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	更新時の搬出入スペースを確保	5.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース	予備スペースを確保	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	工場立地上の緑地を確保	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.5	0.29	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電3.0kw以上を採用	4.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明の採用によるシステム効率化	5.0	0.43	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=64.7%	5.0	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.29	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.28	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.28	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	解体時の仕上げ及び躯体の分離化	5.0	0.34	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シール材等の有害物質を含んでない材料を選定	5.0	0.32	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤	フロンガスを使用していない	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		省エネ計算に伴う、Co2排出削減	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.3	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場の確保	5.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	工場運用における廃棄物の分別及び抑制	5.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-